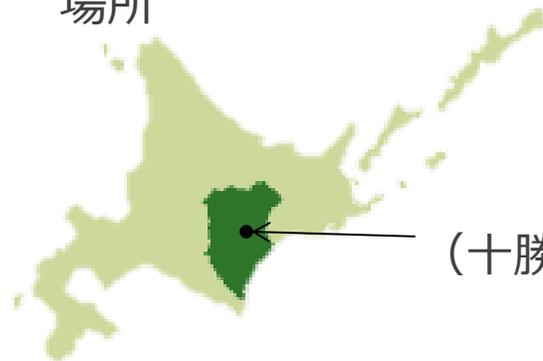


池田町地域おこし協力隊の 募集について

産業振興課畜産係

池田町について①

▶ 1 場所



(十勝地方中部にあります。)

▶ 2 基本情報

○面積371.79m²、人口約6,500人の小さくのどかな町です。

○町長 勝井 勝丸 (かつい かつまる)



○札幌からは、車でも列車でも3時間弱、十勝地方の中心地である帯広市からは40分程度です。



池田町について②

▶ 3 名産品

【なんといっても十勝ワイン】

- 日本で最初に誕生した「自治体が経営するワイナリー」です。1952年（昭和27年）の十勝沖地震と引き続いた大冷害により、池田町の財政は苦境に立たされました。そこから脱却するために始まったのがワイン造りです。
- その後、幾多の苦勞を乗り越え、2013年には十勝ワイン50周年を迎え、現在に至っています。
- ワインの製造・販売を行っているワイン城が観光スポットになっています。
- 2020年新型コロナウイルス禍のなかでワイン城が「しずかにリニューアルオープン」今はひっそりとお客さんが帰ってくるのを待っています。



池田町について③



← 褐毛和種
(あか牛)

▶ 3 名産品

【その他にも...】

十勝ワイン発展の歴史の中で、牛肉とのマリアージュによる売出しを考え、1973年（昭和48年）から試験的に褐毛和種（いわゆるあか牛。ワインの赤にちなんだと言われています。）の導入を始めました。当時は、肥育の一部を池田町が担い、十勝ワインと同じく「自治体が経営する肉牛生産」としてスタートしています。

平成25年には、JA十勝池田町が「いけだ牛」として、地域団体商標登録をし、一層ブランド化が進みました。

「いけだ牛」の特徴は、

- ・ 池田町内で生まれ、出荷されるまで池田町内で飼育されている褐毛和種
- ・ 十勝ワイン製造過程での副産物であるワインおりを給飼されていることであり、程よい霜降りと和牛ならではのジューシーな風味となっています！



そんな池田町ですが...

**町営牧場の存
続が危機的...**

町営牧場の現状

- ▶ 池田町で任用している職員6名で、夏季に限り、畜産農家から主に繁殖雌牛の預託を受け、町の土地で概ね350頭程度を放牧により飼養しています。
- ▶ 預託牛の飼養や、牧草地などの広大な敷地、施設及び機械の維持管理などが主な業務ですが、専門的技術や知識の継承が十分に達成されておらず、ベテラン職員の経験や感覚に頼っている状態となっています。
- ▶ 町内の家畜飼養農家戸数・頭数自体が減少しているため、預託を受けている頭数も年々右肩下がりになっていることから、事業収入が減少する一方、老朽化している施設・設備・機械の維持経費などコストが増大しています。

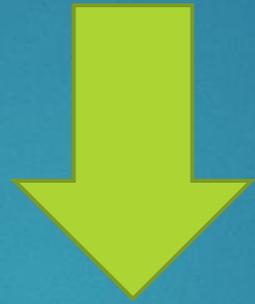
⇒池田町の畜産農家のためにも、継続して町営牧場を運営していきけるような仕組みが必要...

そのためには、今までとは違うヨソモノ、ワカモノの視点を取り入れてみてはどうか...

このままの状態でも町営
牧場を運営してもギリ
貧になってしまう現状

改善に向けた
取り組みが
急務

改善に向けた取組みが急務



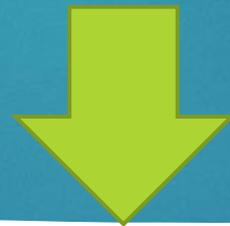
地域おこし協力隊

導入

地域おこし協力隊加入



町営牧場、畜産農家、学校等での知識習得



**任期終了後は、池田町内に定住し、
畜産振興に携わる生業に就業**

任期終了後の畜産振興に携わる生業①

▶ 町営牧場職員としての任用

⇒町営牧場で継続して任用し、後継者として就業する。

また、任用期間中に町営牧場や、畜産農家、学校等で学んだ経験を活かして...↓

▶ 畜産農家としての就農

⇒離農が近い町内畜産農家の後継として、施設や牛の移譲を受けて畜産農家の道へ進む。



任期終了後の畜産振興に携わる生業②

▶ コントラクター業の開業

⇒町営牧場で、牧草地の管理を学ぶことで、飼料の生成・収穫の受託業者（コントラクター業者）として開業する。

▶ 人工授精師・削蹄師など畜産に関わる職業での活動

⇒地域おこし協力隊の任期中に取得した資格や、習得した経験知識を活かし、畜産振興に携わる。



※池田町が想定している一例にすぎません。

地域おこし協力隊任期中の 業務イメージ

- ▶ 町営牧場で預託を受けている放牧牛の飼養をとおして、牛の体調や成長の感覚など生に関する基本的な取扱いを習得する。
- ▶ 町内の畜産農家で研修を受け、牛舎での飼養・給餌など畜産農家としての基本的な業務を習得する。
- ▶ 農業系の学校や、各団体の研修参加をとおして畜産業務全般への理解を深める。
- ▶ 日進月歩で進化を続ける先進の機械・システム等畜産ICT機器の導入を検討し、新たな町営牧場の運営体制を構築する。
- ▶ いけだ牛の魅力のアピールするために、各地に出向いた対面販売や、SNSでの発信などPR活動に参加する。
- ▶ 町営牧場の敷地にある牧草の収穫・乾草等の作業から、飼料作りの基礎・改善の取り組みを行う。

※池田町が想定している一例にすぎません。

池田町では既に3名の協力 隊員が活動しています！

次頁よりインタビューを掲載しています

質問①池田町の印象

質問②現在行っている地域おこし活動

質問③将来の展望

先輩協力隊員へのインタビュー①

▶ 頓所 幹成さん（とんどころ みきなり・令和2年4月1日着任）

①町の雰囲気としては地元の長野県に近いものを感じました。

しかし、広大な畑にタンチョウやハクチョウ、キタキツネなどの本州では見慣れない動物たちを日常的に見られることに驚き、感動したのを覚えています。

②野生鳥獣による農作物への被害を防止するために捕獲活動を行っています。

また、捕獲されたエゾシカをさらに有効利用することを目的に、エゾシカの皮に自然由来の加工をほどこすことで革として利用することを試みています。

今後、手作り革をつかった製品の開発にも取り組んでいきます。

③自らエゾシカの捕獲にたずさわり、革からハンドメイドの革製品ブランドの立ち上げを一つの大きな目的として、狩猟業と農林業を複合させることを目指しています。



先輩協力隊員へのインタビュー②

- ▶ 川瀬 千尋さん（かわせ ちひろ・令和2年7月1日着任）
 - ①自然が多く、町の近くに畑や森、木がたくさんあり気持ちが良いです。町中にもぶどうの木があります。
 - ②林業推進員として、町有林及び未利用材の活用や、間伐を行っています。地域おこしの活動として自分で考えた商品の開発やアイデアの具体化も行っていて、毎日楽しく活動しています。
 - ③自伐型林業家+地元の不動産業者として独立しようと考えています。現在は山林や事務所の購入にあたり情報収集と、林業の知識・経験を学んでいます。



先輩協力隊員へのインタビュー③

▶ 福家 菜緒さん（ふけ なお・令和2年8月1日着任）

- ①移住して1週間がたったところです。麦畑に囲まれた一軒家（虫、多め）をお借りして暮らしています。ご近所さん、役場のみなさん、山仕事で一緒にいる皆さん、気さくに明るく迎え入れてくださっています。池田にきてよかった〜」と思うところばかりです。
- ②まずは林業従事者として必要な基礎的な技術を習得すべく、役場の担当職員の方や先輩隊員から、チェーンソー、刈り払い機、施業方法、3年後の起業に向けた考え方、関係者への橋渡しなどをゼロから、つきっきりで丁寧に 教えていただいています。今後、町民の皆さんに活動の様子を知ってもらえるよう広報にも力を入れたいです。
- ③池田町定住と町有林を活用した経済的自立を目指し、地域の方々とお話しを伺いながら、課題を見出し、自身の経歴や経験を生かしてどのように活動していけるかを模索しているところです。町内に山林を所有している方から、そこで活動するNPO団体の今後の課題についてお話しを伺ったので、そちらの活動に参加させてもらいながら、かねてより興味があった木育や環境教育の展開を考えていきたいと思っています。

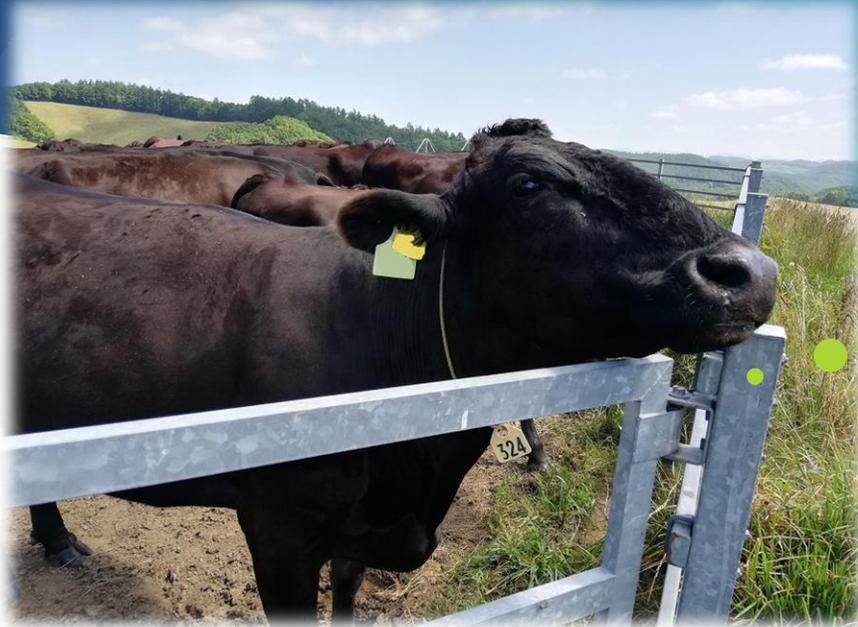


未経験でも意欲のある方
を求めています！

お問い合わせは
池田町役場企画財政課企画統計係
までお願いします。

TEL:015-572-3112

Mail:kikaku@town.hokkaido-ikeda.lg.jp



待ってるよ!

